

＜書 評＞

五味重春 監

宇尾野公義 編

リハビリテーション医学講座（第13巻）

神経筋疾患

今村義典（産業医科大学リハビリテーション医学教室）

本書は、リハビリテーション医学講座17巻のシリーズの中の1巻（第13巻）として刊行されたもので、対象は、リハビリテーション医学を志向する初心者のためのマニュアル的なものとされている。

本書は、神経筋疾患について6章よりなり進行性筋ジストロフィー症、多発性筋炎、運動ニューロン疾患、ニューロパシー、重症筋無力症、floppy infant について言及し、いずれも治療面で難病であるために、その治療について多面的アプローチが検討されているのは周知のことである。進行の阻止、運動機能の維持と回復、精神的サポートなど、治療

の一環としてのリハビリテーション医学の役割は大きい。しかし、これらの疾患に対するリハビリテーション治療として確立されたものはないが、筆者らは、リハビリテーション治療の基本的アプローチに加えて、筆者らの工夫をおのおの述べられている。

本書は、各章毎の分担執筆になっているが、各章の構成は一貫しており読み易く出来ている。内容については、疾患と臨床症状、そしてリハビリテーションの評価、目的、治療プログラムから成っている。一般的な説明は表に一括され、特徴的なことについてのみ簡潔に説明されてい

る。また、適切に写真、図を挿入し簡明に説明されている。特にリハビリテーション治療の実際についての具体的説明は、第1章の進行性筋ジストロフィー症にスポットを当て豊富に写真と図を使って基本的運動療法からADLにおける筆者らの工夫についてまで述べられている。また、疾患の経過について急性期、亜急性期、慢性期などに分けた評価と治療プログラムの説明は、具体的な臨床経過と疾患の特徴として初心者に分りやすい。反面、リハビリテーションの目的についての各章の記載がほとんど特徴なく基本論の繰り返しになっているように感じられた。参考文献が、一般に身近かな雑誌、成書であることもマニュアルとして十分目的を達しリハビリテーション医療や神経科を志すものにとって難病治療に対する総論的内容であり一読の価値があるものとお奨めしたい。（A5、頁114、¥2,000、1984、医歯薬出版 刊）